

くじら日記

太地町立博物館から



太地町沖のイルカ追い込み
漁で捕獲されたコビレゴンド
ウ2頭を4月下旬から、新た
に飼育することになりました
た。コビレゴンドウは、太地
町立くじらの博物館で飼育す
るクジラの仲間9種の中で最
も大きく、成熟した雄個体は
体長6・1メートル、体重3600
キに達します。

丸みを帯びた大きな頭が特
徴で、ゴンドウ（巨頭）の名
にふさわしい体つきをしてい
ます。当館での本種飼育の歴
史は長く、1969（昭和
44）年に開館した後、最初に
飼育展示したクジラがこのコ
ビレゴンドウでした。また、
85（60）年に飼育を開始した
雄の「ゴンタ」は当時体長3
メートル8センチ、体重405キでした
が、95（平成7）年までに体
長4メートル73センチ、体重800キに
成長しました。ゴンタの飼育
期間は94（6）年に当時世界

コビレゴンドウ



コビレゴンドウを餌付けする飼育員ら—太地町立くじらの博物館

餌付け苦心 2頭新たに飼育

最長だった8年9カ月18日を
超え、注目されました。コビ
レゴンドウは開館以来、当館
の代表的なクジラとして親し
まれていました。コビレゴンドウは体が大き
いことに加え、非常に神経質
であるため、飼育は簡単では
ありません。特に、環境に慣
れにくく、餌付けが難しいた
め、今回も、飼育員は相当の
覚悟で臨みました。まず飼育
する場所は、先輩のコビレゴ
ンドウ2頭が飼育されている
水槽を選びました。一緒に飼
育することで、安心感が得ら
れ、環境に早く慣れると考
えました。

ただ、先住個体との相性が
悪かったり、互いに力を誇示
しようとしたりすれば、たち
まち闘争になる可能性もあり
ます。緊張する中、同居させ
ると、見事に4頭が並んで泳
ぎ始めました。

次は餌付けです。自然界で
生きた魚やイカを食べる彼ら
に、解凍したそれらをあけて
も見向きもしません。そこ
で、餌を見せる▽口を開けさ
せる▽口内で餌の舌触りに慣
れさせる▽餌を咽喉から食道
内に挿入する—以上を繰り返し

当館は新型コロナウイルス
の感染拡大予防のため、4月
13日から臨時休館していま
したが、今月18日からイベン
トの一部を中止するなどの方
策をとったうえで再開しまし
た。

（太地町立くじらの博物館
副館長 稲森大樹）